

## 第101回「村長とのふれあいトーク」当日のやりとりコメント

### 【1】－1 デジタルマップについて

村ホームページにはデジタルマップの掲載がない。他市町村ではゴミ収集所や街路灯の場所や行政の基盤情報を載せているので活用してほしい。

#### ⇒【村長コメント】

デジタルマップについて情報提供いただき感謝している。非常に有効なツールのひとつであり、活用を検討したい。

### 【1】－2 村長定例記者会見のライブ配信について

記者会見の資料を拝見したが、村の事業についてわかりやすくまとまっていた。記者会見をライブ配信すれば、より村民にわかりやすく届くと思う。村長のコメントを直接視聴できるし、費用対効果も十分だと思う。

#### ⇒【村長コメント】

ライブ配信に限らず、情報の効果的な発信方法を検討していきたい。

### 【1】－3 村の情報発信について

村からの情報を得るために、村公式ホームページをこまめに閲覧している。しかし、他の媒体等では情報が掲載されているにも関わらず、ホームページ上には掲載が見られないものもある。村民への行政情報の発信は重要であるため、充実したホームページの運営を心掛けていただきたい。

#### ⇒【村長コメント】

村民への行政情報の発信は、大変重要であると捉えている。庁内にしっかり周知していきたい。ご意見として伺う。

### 【1】－4 村公式LINE等を使った公園や河川・水路の危険箇所などの投稿機能の導入について

村民が公園や河川・水路の危険箇所を発見した際に、各自のスマートフォン等を使って、役場へ投稿ができる機能をぜひ取り入れてほしい。その情報を、村のホームページにも公開することで、村民の安全が確保される。オンラインを通じて村民と役場がつながるツールにもなり、住民の満足度も向上すると思う。

#### ⇒【村長コメント】

ご意見いただいた投稿機能を使うことで、村民の村への関わり方や満足度が変わってくると思う。村においても、当該機能が取り入れるのか検討させていただく。

## 【1】－5 高齢者のゴミ出しについて

高齢者のゴミ出し支援について、ホームページに掲載が必要かと思う。また、ゴミ出しで苦勞する高齢者の方も増えてくる。新しい方法について検討していくべきではないか。

### ⇒【村長コメント】

現時点では限られた方のゴミ出し支援として対応しているが、今の方法ではいずれ対応できなくなってくる。新しい手法は検討していきたい。

## 【2】－1 管理されていない空家とその敷地について

管理されていない空家がある。たばこの吸い殻などから庭の草木に引火し、火事にならないかと心配している。地域のボランティアグループとして空き家の敷地に入り、隣の家に隣接する部分だけでも草を刈り取りたい。

### ⇒【村長コメント】

本来は所有者が自分で行うものだが、「ボランティアが敷地の中に入っていいか、また、ボランティアが隣接するところを刈る作業をしていいか」について、担当課を通して所有者に確認し、結果を連絡する。

### ⇒【都市政策課コメント】

日頃より、本村の住宅行政にご協力をいただき、誠にありがとうございます。さて、過日の村長ふれあいトークにおいてご意見をいただきました空き家の草刈り等につきましては、村から空き家の所有者等に対しまして、地域の住民から草刈りを代行したいという声が上がっていること等を周知させていただきます。

なお、空家等（土地）への立ち入りと草刈りの実施につきましては、民法（令和5年4月1日を施行日として改正予定）の規定に基づいて実施する必要があることを申し添えます。

## 【2】－2 立木の管理について

原研道路の常磐線陸橋東側土手の土砂や雑草の除去を、地域のボランティアで行いたい。土手のところにうるしの木があり、伐採してほしい。どこに相談すればいいか。

### ⇒【村長コメント】

県道の道路敷だから大宮土木事務所の管理地かと思うが、個人の土地かもしれない。確認の上、連絡する。

### ⇒【道路整備課コメント】

県道沿いの木について、管理者である常陸大宮土木事務所に対応を依頼しました。次年度予算で対応予定とのことなので、ボランティア作業の際、事前にご連絡をもらえれば常陸大宮土木事務所に伐採の進捗を確認いたします。

## 【2】－3 行政で行っている除草の時期について

地域ボランティアグループでは、来年度も歩道の土砂、雑草の除去を予定している。行政でも除草を年2回行っていると聞いているが、その時期を教えてください。

### ⇒【村長コメント】

担当課から除草の時期を連絡する。

⇒【道路整備課コメント】

村道の除草時期は、1回目（5～8月）、2回目（8～11月）を予定しており、作業箇所が多いため、期間を長くしております。実際に作業をする際には、事前に当課と協議をお願いいたします。

【3】－1 公園の多目的利用について

ゴミ集積所は設置場所を見つけるのに苦労するし、借地料が高いケースもある。各地区の公園の一面を、周辺環境に配慮したゴミ集積所として利用させていただけると大変ありがたい。公園利用基準があると思うが、住民に寄り添った利便性を考慮していただきたい。

⇒【村長コメント】

ゴミの集積場所の土地は各地区によって借地や、買い上げなどの対応してもらっている。公園の一部を集積所として利用していくことも場合によっては柔軟に考えて、使用しても差し支えないと思う。ただし、配置や設置個所数など、公園の景観や環境が悪くならないよう、こういった基準で許可していくか注意が必要である。今後検討したい。

【3】－2 防犯カメラの設置について

東海村を日本一の安全な街にして頂くために、プライバシーの問題もあるが、防犯カメラの設置を検討していただきたい。同時に全村民が防犯に対する意識向上を図る手段として広報活動も必要だと思う。

⇒【村長コメント】

警察で防犯カメラ設置の補助をしている。それを活用し、村内で設置を予定しているところもある。当面の間は警察と協議の元、優先順が高いところから設置していく。将来的には治安維持のため、村単独での設置も検討したい。

【3】－3 グラウンドゴルフ専用コースの新設について

健康増進を目的にグラウンドゴルフを行っているが、絆グラウンドが予約満杯の状態であり、近隣市町村や他県まで出向いている方もいる。久慈川鉄橋下など、是非新設コースを作って欲しい。

⇒【村長コメント】

久慈川沿いなら場所の確保もできそうだが、現地に移動するまでの問題もある。ご意見として伺う。

【3】－4 村独自のイベントについて

近隣市町村では、子供の日に合わせて、鯉のぼりを活用したイベントをやっている。村独自で観光客を集められるようなイベントをやってみてはどうか。

⇒【村長コメント】

ご意見として伺う。

#### 【4】 特記事項なし

#### 【5】 - 1 原発について

原子力災害に伴う広域避難について、被害想定や気象条件、避難地域の人口規模から考えても現実的ではないのでは。最近は原子力発電所内での火災などもあり心配だ。

##### ⇒【村長コメント】

原子力災害対策としては、原子力発電所の半径 30 キロメートル以内から、いち早く避難することが求められている。気象条件は過去のデータから想定できる部分もある。火災については核セキュリティーエリア以外で起きているが、事業所としての管理方針やモラルもあると思う。

#### 【5】 - 2 原子力災害時の緊急連絡方法について

原子力災害等に備え、行政や村民への緊急の情報伝達手段を DX 化して欲しい。ラジオなど一方通行の連絡手段ではなく、スマートフォンやタブレットなど、目で見ることができ、連絡も双方向でやり取りできるものが必要だと思う。

##### ⇒【村長コメント】

一人 1 台ずつスマートフォンを所有する状況となるには当面時間がかかる。また、所有していても端末の操作が難しいという方もいる。一方、リモコンで操作できるテレビは効果的と考えている。ボタンでの意思表示も可能だし、別の情報伝達媒体との連携もできると考えている。

#### 【5】 - 3 電力逼迫の対策について

4 月以降、電気代の値上げが予定されているが、村としての対策案はあるのか。また、省エネ化やソーラーシェアリングを推進してみてはどうか。

##### ⇒【村長コメント】

各家庭での省エネ化を進めるため、エアコンや冷蔵庫の新規機器購入補助を新年度から実施する予定だ。また、ソーラーパネル設置補助や家の断熱化補助は既に実施している。照明の LED 化も公共施設は実施済みである。今後もソーラーシェアリングも含め固定概念を持たず、様々な方法を検討したい。

#### 【6】 移住支援について

村に移住したが、とうかい住まいる応援補助金の対象期間より前に移住したため、補助を受けることができなかった。令和 4 年 4 月以降の移住が補助対象だと知っていれば、4 月以降に移住した。昨今の物価高騰もあり、遑っての支援がほしい。または、補助を受けた人を対象外にした別の制度を作れないか。ホームページなどでの事前広報も不十分だったのではないか。

##### ⇒【村長コメント】

すぐに移住者への支援を考えているわけではないが、私なりに対策を考えたい。若い世代に向けた移住定住施策とは別物だが、物価高に対する生活支援は考えていきたいと思ってい

る。ホームページでは、次年度の予算案を含めた村長記者会見の情報を公表しているが、トップページなどに来年度予算案の概要としてのせることで、受け取る側が目につきやすく、たどりつきやすいものなるよう気を付けたい。

#### 【7】特記事項無し

#### 【8】地域福祉支援ボランティア「はーとふる」について

社会福祉協議会の地域福祉支援ボランティア「はーとふる」はメンバーが集まらず、存続が厳しくなっている。東海村ファミリー・サポート・センター「すくすく」では、サポーターの時給を上げると聞いている。「はーとふる」は他の活動に比べ置いてかれてしまっている。

##### ⇒【村長コメント】

社会福祉協議会に現状を確認する。

#### 【9】-1 ゴミステーションについて

舟石川2区のゴミ集積所(2か所)の距離が家から遠くて困っている。以前相談した際は、アパートのゴミ集積所の活用も提案されたが、近隣住民も捨てるとなると複数個所に区分けが必要と思う。歩道にネットを被せて集める方法でも良いと思う。

##### ⇒【村長コメント】

以前のふれあいトークから解決に至れていないのは申し訳ない。担当課では調整を続けていると報告を受けている。改めて担当課とも確認し、解決に向け引き続き調整する。道路や歩道での集積は、カラスの被害やマナーに頼る部分もあり、衛生環境の悪化が想定されるので、可能な限りゴミステーション方式を継続したい。

#### 【9】-2 高齢者のゴミ捨てについて

ゴミステーション方式は家から回収場所まで距離があり、高齢者には負担である。今後、高齢者が増えてくる中で、ごみの捨て方について検討して欲しい。

##### ⇒【村長コメント】

高齢者のゴミ捨ては村で取り組むべき課題である。現在は、村で認定した一部の家庭を個別に対応しているが、この方法では対応しきれなくなるだろう。新たな仕組みづくりを検討していく。